

— 目 次 —

<特集>

若者たち

- ♣ 第1章 <解説>
新しき農業者をつくる……8
- ♣ 第2章 <ルポ>
ふるさとの大地に立つ……29
- ♣ 若き農民像 ……15
- ♣ 農村の若い人たちに
大田遼一郎 ……26
- ♣ <施設紹介>
10 鹿本町青年建設班の活動 ……13
20 県経営伝習農場菊池分場 ……16
30 芦北町立実務学校 ……33
- ♣ 若い広場
1. 林業経営に開眼—福島チエノ……12
2. 若者たちは燃えている
—山下ミエ子……14
3. 俺たちは農業をやる—村上国昭……28

■ここに人あり

若い遊覧船・松本清光君ほか……26

★ずいそう★

久保田義夫・福山嘉直・日隈歌南

<熊本の明治100年>

新文明への二恩人—山口白陽……36

★グラビアページ★

指導員がいる風景・新産業風土記・

<特集>明日への胎動 県政ハイライトほか

<センターカラー>

城下町シリーズ……天草郡苓北町富岡

<表紙> 木の葉ざる



上・真剣にそ菜の消毒準備にとり組む生徒たち。指導するMさんのまなざしも厳しい。



上・農繁期で家の農作業に取組む生徒たちを訪問して激励するのもMさんの仕事だ。



上・激しい訓練の後の食事は、ことのほかおいしい。伸び盛りの生徒たちの食欲はまことに旺盛だ。

近代農業への躍動感

— 県経営伝習農場にて —

カボチャの人工交配の技術指導をするM指導員。その手元を見つめる生徒たちのまなざしは真剣だ。

伝習農場の修業期間は一年。この短い期間に、学ぶもの全てが将来の農業経営の糧になるのだ。生徒たちが、指導員の説明の一つ一つを、食欲なまでに吸収しようとするのも無理はない。それだけに、指導に当たるMさんも熱が入るあまり、授業時間をオーバーすることもまれではないという。

明日の熊本県の農業を担う自立農業者へ—この一つの目的に向かって、全寮制による共同生活の中で、寝食を共にして学び励まし合う中で指導員と生徒たち、そして生徒同志の連帯感も強くなっているのだらう。食事時、食卓を囲んで談笑する風景には、家族的な雰囲気があふれている。

こうして、指導員と生徒が、共に土に汗する生産実習を中心にした一年がすぎると、生徒たちは、近代農業にふさわしい経営感覚とたくましい農民魂を持った、一人前の後継者として巣立っていくのだ。

強い日ざしの下で、土ととりくむ指導員と生徒たち、そこには明日の農業への頼もしい躍動がある。

そして、この城南町の本場のほか、鹿本、菊池の二つの農場でも、新しい意識をもった農業人が育ちつつあるのである。